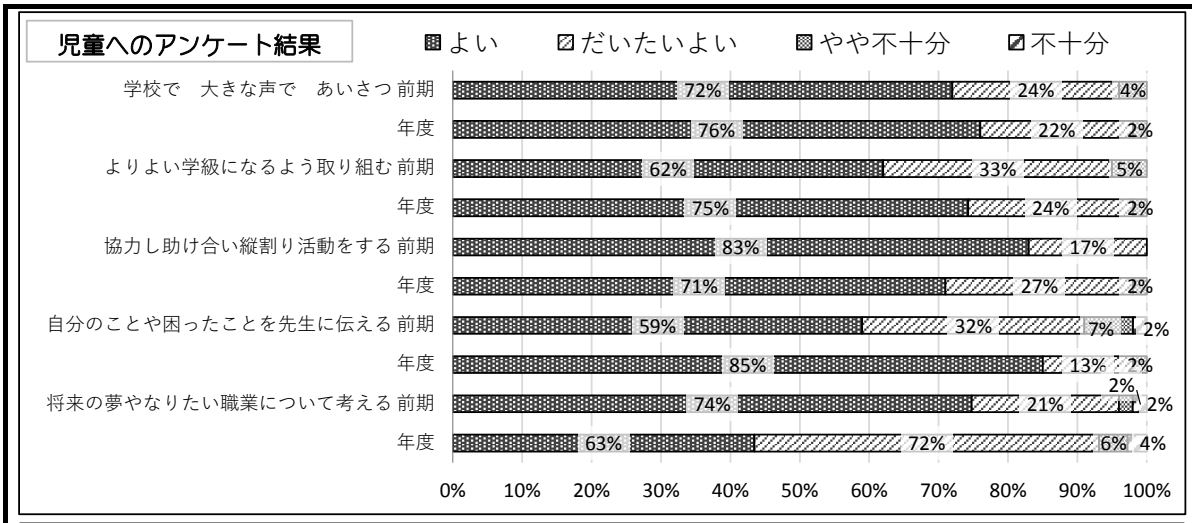
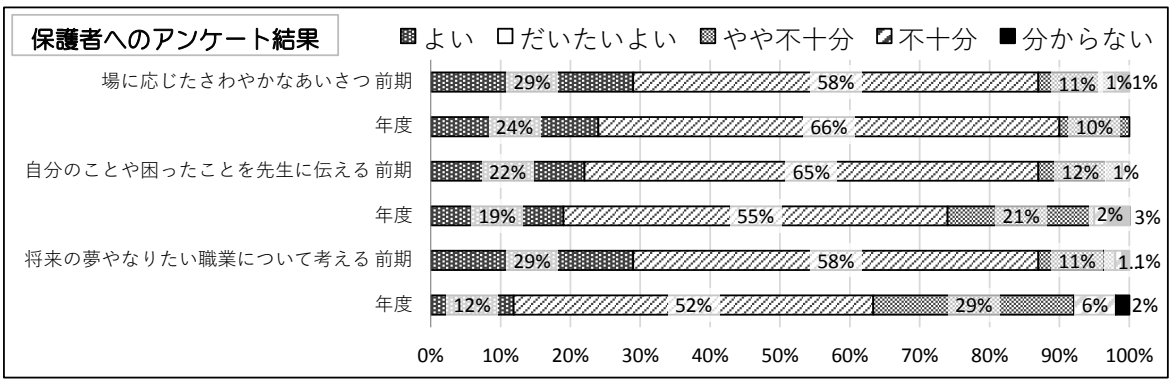
Ⅰ　思いやりの心　たくましい心

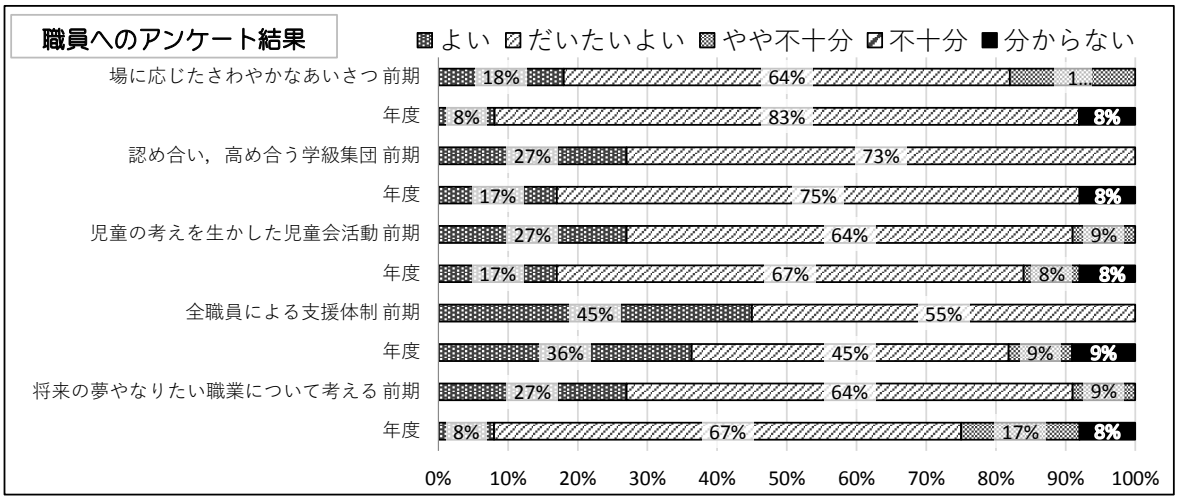
評価項目		自己評価A	学校関係者評価	学校関係者評価委員のコメント
人を思いやり、助け合う心情と態度を醸成しながら、自立への基礎をはぐくもうとしている。	前期	良好	良好	あいさつについては、校内のあいさつはよくできている。しかし、校外では、積極的にできていないとこともあるようだ。“だれにでも”というところをもう少し的を絞って取り組むことも考えるとよい。ハートタイムについて、友達に自分のよいところを見付けてもらったり、友達のよいところを見付けたりと、この活動を通して、周りの人のよいところに目を向けるようになったことが評価できる。
	年度	良好	良好	ハートタイムの取組により、自他のよいところを認め合あうことができ、自己肯定感の高い児童が育っている。あいさつは、個人によって感覚が違う場合があるが、意識付けして進んで行えるようにしてほしい。また、児童・保護者からのヒアリングやアンケート結果から縦割り班などの異学年交流が充実していたことがうかがえた。どの活動においても、学校が工夫を加えながら、各取組を行っているのが分かる。

自己評価の概要と学校の改善策	【前期（→年度）】 （1）校内でのあいさつは、振り返りカードでの意識付け、あいさつ運動やあいさつボランティアの取り組み、あいさつがよい児童の放送での紹介などで、進んであいさつをする児童が増えた。特に、あいさつ運動は、学級、縦割り班、町内と、様々なメンバーで行ったことで、同学年だけでなく異学年の児童ともあいさつするようになった。今後は、「いつでも　どこでも　誰にでも」を合い言葉に、児童会や学級での話合いなどで、さらにあいさつの輪が広がっていく取り組みを考え、取り組ませていきたい。 （2）学級会で決めた学年テーマを意識しながら、様々な活動に取り組むことができた。また、互いを知り仲良くなり、仲間意識を深めるための学団集会が、学団の上の学年を中心に企画・実践されており、学団の絆を深めている。 （3）委員会では、児童会テーマのもと、各委員会の6年生を中心に意見を出し合い、常時活動や児童集会などの活動内容を決め、主体的に取り組んでいる。活動のお知らせや呼びかけは、集会や給食時間の放送、ポスターなどを使って、工夫して行っている。今後は、さらに児童会テーマや委員会の活動目標に迫り、活発な活動となるよう、活動の見直しをしていきたい。縦割り活動の協力については、「よい・だいたいよい」が99％と前年度と同じくとても高く、異学年と仲良く協力して活動するよさを感じていることが分かる。今後も異学年が楽しく交流できる取組を考えていきたい。 （4）（5）児童理解は、日常観察の他にいじめアンケートを実施し、その後児童一人一人と教育相談を行っている。それが、いじめの早期発見や対応、教師に話しやすい雰囲気作りに繋がった。様々な問題には、全職員で協力して対応、解決することができた。
	【年度（→次年度）】 （1）毎月のあいさつ運動のやり方を工夫するとともに、あいさつボランティアの奨励や放送での呼びかけを継続したり、ハートデーでの優しい言動の友達を賞賛し合ったりすることで、元気なあいさつや適切な言葉遣いをする児童が増えた。また、校門前でのあいさつ運動を行ったことで、地域の方の反応から地域の方へのあいさつするよさを実感することができた。今後も、さらに地域や来校者に対して明るく元気なあいさつが広がるように、児童会を中心に活動を考え、取り組んでいきたい。 （2）各学団で行った学団集会では、各学年で役割を分担し、主体的に活動できた。ゲーム等で関わって仲間意識を深めたり、次の学年に向けての意識付けを図ったりすることができた。 （3）児童会活動では、高学年児童が中心となって意見を出し合い、具体的な活動を提案し、実行してきた。日々の活動や集会活動に積極的に取り組む姿が見られた。また、縦割り班活動では、リーダーとなる高学年の児童が低学年に対し優しく接することができ、清掃活動や縦割り班遊び等で仲よく活動することができた。今後も、縦割り活動で互いに関わり合い、協力し合うことができるようにしていきたい。 （4）（5）教育相談週間を設定し、事前のいじめアンケートをもとに学級担任が児童全員との面談を実施し、悩みを抱えた児童に丁寧に対応してきた。また、校内いじめ不登校対策委員会を開き、全職員で共通理解を図った。今後も、様々な悩みや環境、困り感をもつ児童には、ケース会議を必要に応じて開いたり、外部機関との連携を図ったりして対応していきたい。

評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B 前期	自己評価B 年度
1　基本的な生活習慣	（1）場に応じた言葉遣いとさわやかなあいさつ	振り返りカードを活用した自己評価と実態把握 あいさつ運動の実施 ハートデーの実施	3	3
2　集団生活・集団活動	（2）認め合い、高め合う学級・学団	学級経営・学団経営の充実 学級活動や学団活動、行事における活躍の場の設定と適切な称揚	4	4
	（3）協力し、支え合う異学年集団	児童の考えを生かした児童会活動の充実 縦割り班による活動(清掃、委員会活動、児童総会等)	3	4
3　児童理解の充実	（4）実態把握・教育相談	いじめアンケートや教育相談週間の実施と活用	4	4
4　組織的な生徒指導	（5）　指導支援の充実	児童を語る会や就学指導委員会、ケース会議の充実と全職員による支援体制の確立 スクールカウンセラー等外部機関と連携した支援	4	4

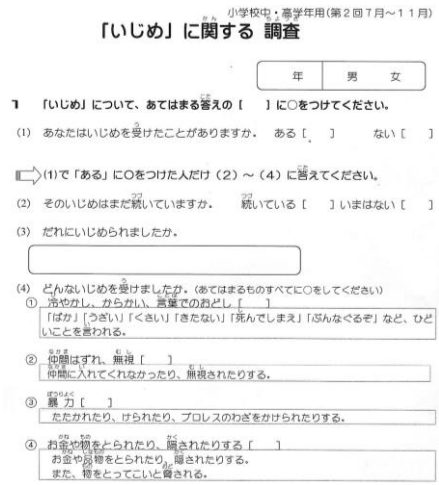






あいさつ運動（地域の方へ

縦割り班遊び



小学校中・高学年用（第２回７月～１１月）

「いじめ」に関する 調査

年　男　女

1 「いじめ」について、あてはまる答えの［　］に○をつけてください。

(1) あなたはいじめを受けたことがありますか。　ある［　］　ない［　］

(1)で「ある」に○をつけた人だけ（2）～（4）に答えてください。

(2) そのいじめはまだ続いていますか。　続いている［　］いまはない［　］

(3) だれにいじめられましたか。

(4) どんないじめを受けましたか。（あてはまるものすべてに○をしてください）

① 冷やかし、からかい、言葉でのおどし［　］
「ばか」「うざい」「ください」「きたない」「死んでしまえ」「ぶんなぐるぞ」など、ひどいことを言われる。

② 仲間はずれ、無視［　］
仲間に入れてくれなかったり、無視されたりする。

③ 暴力［　］
たたかれたり、けられたり、プロレスのわざをかけられたりする。

④ お金や物をとられたり、隠されたりする［　］
お金や品物をとられたり、隠されたりする。
また、物をとってこいと言われる。

いじめに関するアンケート

Ⅱ　基礎学力の定着

評価項目		自己評価A	学校関係者評価	学校関係者評価委員のコメント
基礎学力の定着と表現力の育成を通して、主体的に学び合うことのよさを実感できるよう工夫している。	前期	おおむね良好	おおむね良好	ハンドサイン、リレー発表でたくさん発表できていたことがよい。人に関わろう、みんなで学び合おうとする姿勢も見られた。考えのつなげ方や反対意見の取り上げ方を工夫し、さらに授業を深かめてほしい。課題に主体的に向かうようになっている。タブレットで自分の考えを表現するなど、話す・書くなどで多様な学び方が認められている。ICTの長所と短所を踏まえ、有効に活用してほしい。
	年度	おおむね良好	おおむね良好	特に低学年は、元気がよく、基本的な学習習慣がしっかりと身に付いていてよい。ICTを活用については、どの教科でどのように使うかなど、これまでの学び合いと組み合わせながらの活用の仕方をより工夫していく必要がある。保護者の関心も高いので、より充実した活用ができるよう取り組んでほしい。また、ICT機器や関連する設備については、市に要望し、子どもたちのために学習環境を整備していってほしい。

自己評価の概要と学校の改善策

【前期（→年度）】

（6）基本的な学習習慣の形成のため、学期はじめに「学習の約束」強調週間を設定した。張りのある声で話すことができるように、話し方については「アタックスタート」に重点を置いて取り組んだところ、話し方の項目で96％の児童が「よい・だいたいよい」と答えた。引き続き、児童が「学習の約束」を意識することができるように、目標を焦点化した呼びかけなどを行っていく。家庭学習では、継続してがんばっていると答えた児童が95％だが、保護者アンケートからは自分から取り組んでいる児童が少ないことが分かる。友達のノートを参考にするなどして、主体的に家庭学習に取り組むことができるように、定期的に全校ノート展を行っていく。

（7）振り返りの時間を確保し、思考の再構築を図った。より生活に生かすことができるように作り直した振り返りの視点を提示することで、授業前と授業後の自分の変化やこれからの学習を意識して振り返りを行うことができるようになってきた。また、考えがあっても発表することができない児童が多いことから、ICTを活用した話合い活動だけでなく、自分の考えを付箋に書き発表に生かすことなどに取り組み始めている。全ての児童が、自分の思いを伝え合うことができるように発表方法を工夫していく。

（8）学びのあとが分かる掲示や、取組の参考となる作品の掲示を行っている。図書活動では、読書ボランティア「ミラクルバナナ」の読み聞かせを行い、本に興味をもつことができるようにした。また、栗盛記念図書館の司書の方に来ていただき、書架の整理をしたり、「友情」についてのおすすめの本コーナーを作ったりしてもらった。花壇や学習園・学習田なども地域の方の協力も得ながら整え活用し、体験的な学習の充実を図っている。

（9）基礎学力を高めるために、朝の会などの時間を活用してパワーアップタイムを設け、計算力や漢字力などの基本的な力を伸ばしている。また、授業では、練習問題として学習状況調査の過去の問題や単元テストの問題に取り組むことで基礎学力の定着を図っている。この後もパワーアップタイムや補充指導を継続し、基礎学力を高めていく。

【年度（→次年度）】

（6）学習習慣では、月の目標に合わせて学習強調週間を設定し、「話す・聞く」スキルチェックでは、言葉のはじめに力を込めて話す「アタックスタート」に重点を置いて取り組んだ。昨年度から継続して全校で「アタックスタート」を呼びかけ続けたことで、99％の児童が「大きな声、はっきりとしたことばで話す」ことができたと答えている。家庭学習では、友達のよさを自分のノートに生かすことができるように、全校ノート展を行った。保護者のアンケートでも家庭学習の項目で「よい・だいたいよい」が24ポイント増え、90％を超えている。意欲的に家庭学習に取り組むことができるようになったことが分かる。2月には家庭学習がんばり運動を実施し、内容の充実を図る。

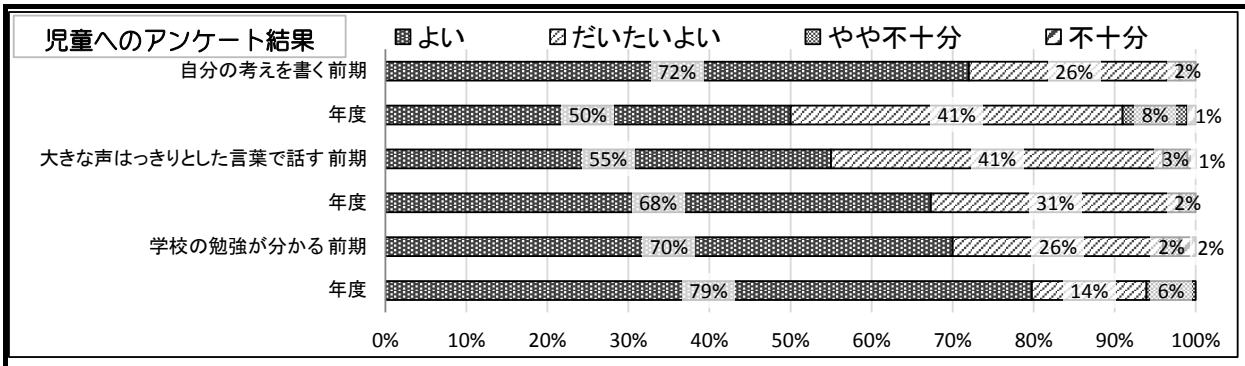
（7）日々の授業では、「自分の考えを発表する」という課題を改善するために、ICTを活用した学び合いの他に、考えを記入した付箋や短冊を活用した発表に取り組んだ。発表が苦手な児童にとっても、考えを表現しやすい場を設定したことで、より多くの意見を交流することができ、学びを深めていくことができた。また、月に一度「たくさん話すぞoneday」を実施したことで、児童の発表意欲を高めることができた。引き続き、伝え合う場の設定を工夫するとともに、学びをステップアップさせる授業づくりも推進していきたい。

（8）学習環境は、学習コーナーや関連図書コーナーなどで学習の跡を残している。また、友達の考えや表現方法を知る機会を増やすために、全校作文展を開いた。このことが、全校で課題としていた「自分の考えを書く」という項目で「よい・だいたいよい」が児童90％、保護者80％を超えたことにつながったと考えられる。図書環境では、栗盛記念図書館から月に約50冊の図書を借り、貸し出しを行った。また、12月には低学年に向けて図書委員会による読み聞かせを行った。様々な図書に触れる機会をつくることができたが、より多くの児童が図書室を利用して本に親しむことができるように、環境を整えていく。

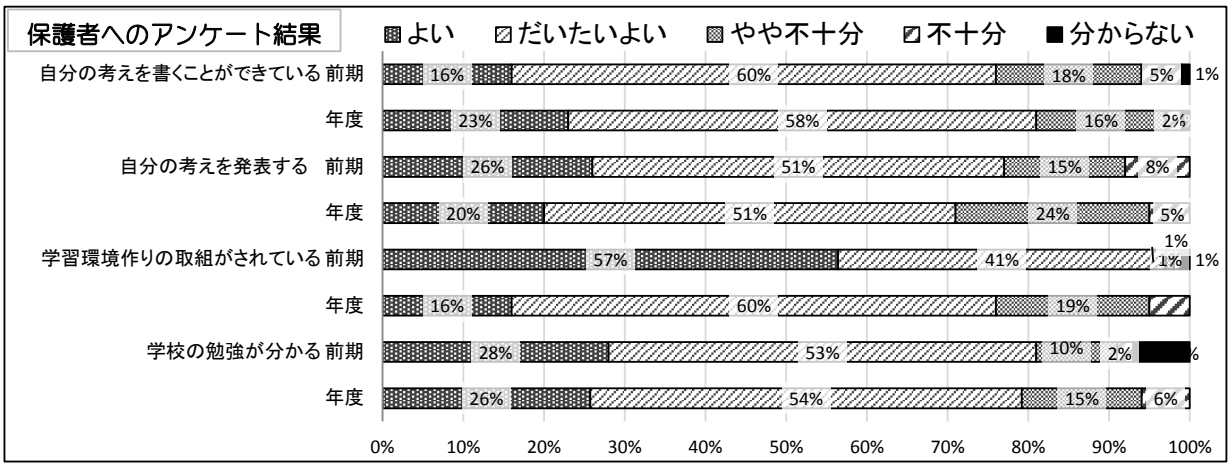
（9）基礎学力定着を図り、毎週月曜日の朝学習にカッシータイムを設定した。全校で学習ソフトを活用したタブレット学習を行い、児童自身が学習内容を決めて進めることができた。放課後パワーアップ学習は全職員体制で行い、習熟度別グループでの学習や支援体制を強化した指導ができるようにし、秋田県学習状況調査では、3学年11教科中8教科で県平均を上回る結果となった。学力テストの結果を分析して、6年間を見通した各教科の指導の留意点について全職員で確認し、今後の指導に生かしていきたい。

評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B 前期	自己評価B 年度
5　学習への取組	（6）基本的な学習習慣の形成	「学習の約束」強調週間の設定と継続指導 家庭学習の充実　朝読書の実施	3	3
	（7）思考力・判断力・表現力の育成	自ら考え、伝え合う場の育成 問いや考えがつながる授業づくり 振り返りの充実　ICTを活用した授業の充実	3	3
	（8）学習環境の整備	学習コーナーの充実　参考作品の掲示による啓発 図書活動の充実	4	4
	（9）基礎学力の定着	授業における評価の活用 パワーアップタイムの実施 学習状況の分析と共通理解及び補充指導の実施	3	4

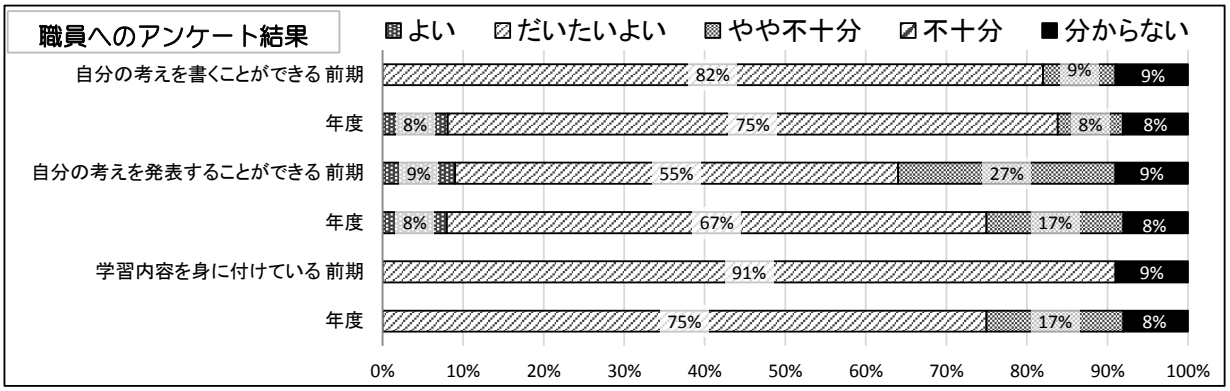
児童へのアンケート結果

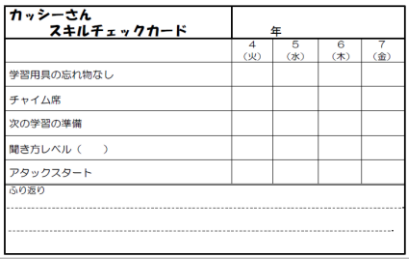


保護者へのアンケート結果



職員へのアンケート結果





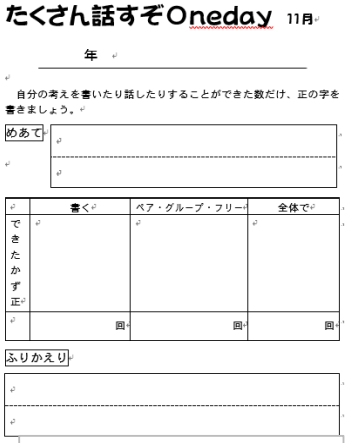
カッシーさん スキルチェックカード　年

	4（火）	5（水）	6（木）	7（金）
学習用具の忘れ物なし				
チャイム席				
次の学習の準備				
聞き方しベル（　）				
アタックスタート				

ふり返り

学習習慣の定着を図ったスキルチェック

付箋やICTを活用した授業



たくさん話すぞOneday　11月

年

自分の考えを書いたり話したりすることができた数だけ、正の字を書きましょう。

めあて

	書く	ペア・グループ・フリー	全体で
できたかず 正			
	回	回	回

ふりかえり

月に一度行った「たくさん話すぞoneday」

図書委員会による読み聞かせ

タブレットを活用した朝学習「カッシータイム」

Ⅲ　健康と体力

評価項目		自己評価A	学校関係者評価	学校関係者評価委員のコメント
体力つくりと健康増進を推進しながら，心身ともに健康でねばり強く物事をやりとげる子を育成しようとしている。	前期	良好	良好	メディアコントロール週間の取組が、メディアの適正な使い方を意識付ける手立てとして成功している。子どもたちは、自分の中でルールを作って使うことができている。メディアや食習慣、生活習慣について家庭でのことであるが、家庭への啓発を続けてほしい。体力つくりでは、遠足も含め、コロナ禍でもよい取組を行うことができている。
	年度	良好	良好	食習慣の形成について、子どもたちの自己評価は高いが、保護者の評価が伸びていないことが気になる。新型コロナ感染症の状況が落ち着き、外遊びをするなどの従来の健康的な生活に戻りつつあるが、withコロナで生活が変化していく時代になる。引き続きメディアコントロールに関わる取組や望ましい食習慣の形成を促す取組を続け、子どもたちの心身の健康を維持できるようにしてほしい。

自己評価の概要と学校の改善策

【前期（→年度）】

(10)全国的なコロナの流行もあり、手指消毒の徹底、職員による給食前の次亜塩素酸による机や配膳台拭きなどを行ってきた。今後も継続することで、拡大防止に気を配りたい。清掃指導においては、掃除用具の使い方や正しい掃除の仕方を掲示し、担当箇所は教員も一緒に掃除をしている。学年で役割が決まっているため、班長を中心にスムーズに清掃活動に取り組むことができている。歯みがき教室は、今年度はコロナ禍のため飛沫防止の観点から,実技はできなかったが、6月に北秋田地域振興局から歯科衛生士の先生をお迎えし、映像資料を使って実施した。正しい歯みがきを怠ると、将来にわたり必ず影響が出てくることを低学年児童も理解することできた。歯みがきカードなどの活用も効果が見られる。メディアコントロールでは、早寝早起きやゲームの時間について、全体的によい傾向にあるものの、一部全く改善が見られない児童も見られ、家庭と連携して改善に向かいたい。

(11)食育については児童の実態を考え、「好き嫌いをしない。」という表現から「嫌いな物でも一口は食べよう。」という、取り組みやすい言い方にした結果、数値が大きく上がった。児童自身の、それならできそうだ、やってみようという気持ちに結びつけることができたと思う。実際、一口でも食べてみることで自己肯定感も高まり、次へつながると考える。栄養教諭との連携では、9月に学校栄養教諭の大越先生を招いて、食育指導を行った。発達段階に合わせ、1・2年生「野菜を食べよう」、3・4年生「おやつのとりかた」、5年生「食べて元気に」、6年生「献立の工夫」と題して、講話と実技を行った。専門の先生の言葉に、みんな真剣に耳を傾けていた。

(12)業間運動では、運動会前と新体力テスト前に「全校マラソン運動」に取り組んでいる。中休みの20分のうち10分、自分のペースでマラソンをしている。異学年交流の場にもなっており、縦割り班の上級生と楽しそうに走る低学年児童も多く見られる。マラソンカードを活用し、秋田県のどこまで走ったかを確かめることができるようにしている。後期からは、体育館で密を避けるため2学年ずつの縄跳び運動を行い、体力の向を図っていきたい。

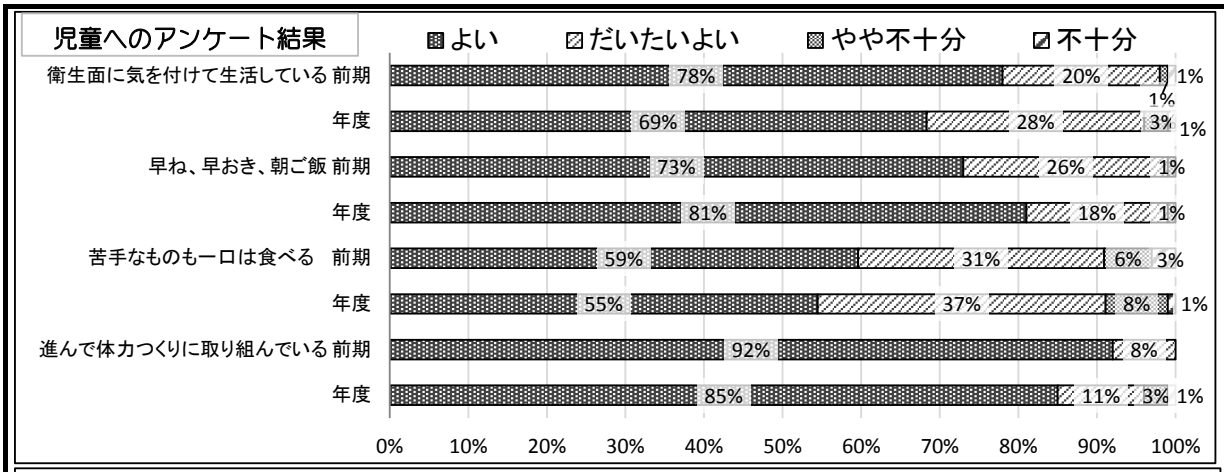
【年度（→次年度）】

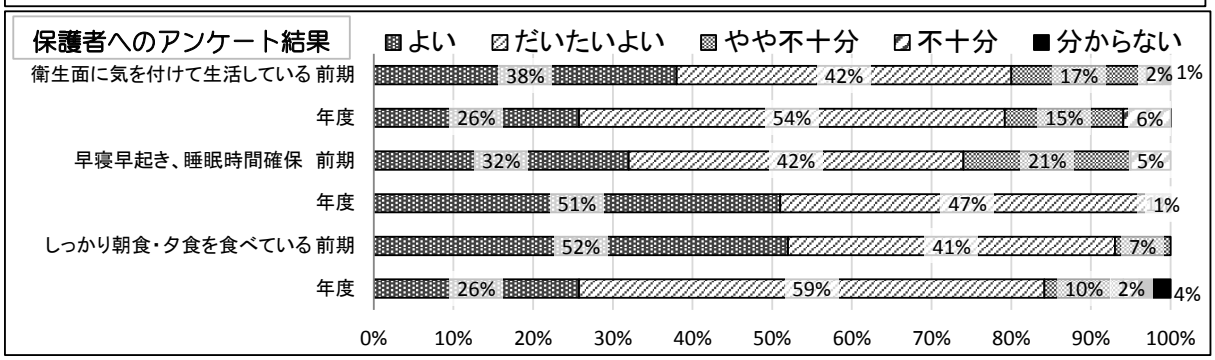
(10)アルコール手指消毒器や自動検温器を児童の動線に沿って配置し直したり、教室棟を中心に児童の使用頻度が多い水道蛇口にタッチレス水栓を設置したりするなどして、日常の衛生管理に努めた。その結果、外遊びや清掃活動の後に、自然に手洗いをすることが身に付いてきた。メディアコントロールの面では、大館市一斉のメディアコントロールとは別に、学校独自の「メディアトリプルアタック」を実施した。これは、児童がより主体的に取り組むために、学級や個人でメディア使用時間などを決めて全校に発表し、その達成率などを紹介するというものである。さらに、全校集会ではメディア過多による身体的、精神的な弊害を、「ゲーム脳」の例をもとに、映像資料で養護教諭が講話をした。11月には低学年児童を対象に手洗い教室を行った。きちんと洗ったつもりでも、汚れに反応するブラックライトを当てると手が青く光る児童も多く、もっとしっかり洗う必要性を実感することができた。来年度は健康面や衛生面に対する意識をさらに高め、よりよい生活を送ることができるよう、さらに施策を考えていきたい。

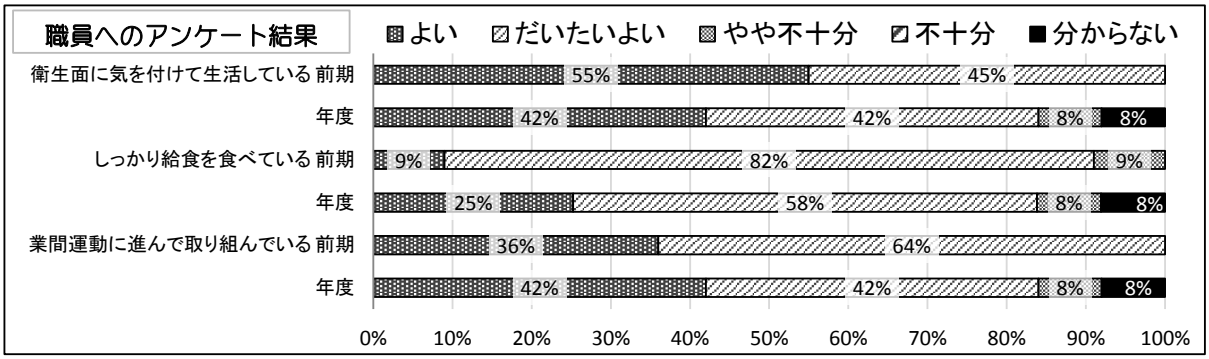
(11)食育面では給食センターの残食調べにおいて、前期よりも後期の残食が減ったという報告があった。前期は「苦手な食べ物も、一口は食べてみよう」という所からスタートしたが、少しずつ食べるうちに、児童の中で「もっと食べてみよう。」という意識が高まってきた結果と思われる。おかわりをする児童も確実に増えてきた。特に高学年では、担任が給食中に栄養面のアドバイスをしたり、全校放送で給食一口メモを流したりして、さらに深い食育になってきていることが感じられる。栄養教諭による、望ましいおやつの摂り方の授業も行われ、冬休みの生活に生かせる内容であった。

(12)業間運動では、後期はなわとび運動に全校で取り組んだ。学年に応じて、レベル別の技を紹介したカードを配付し、難しい技に挑戦する児童もいれば、長縄やダブルダッチに挑戦する児童も見られる。基本的には体育館を割り当てているが、ランチルームも随時開放して、いつでもできるようにしている.。冬季の運動として、外遊びとともに奨励していきたい。

評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B 前期	自己評価B 年度
6　健康的な生活習慣	(10)健康な生活習慣の形成	清掃指導の充実 メディアコントロールデーの実施と指導 学級活動(生活習慣)・日常における歯磨き・手洗い指導の充実	3	3
	(11)望ましい食習慣の形成	給食指導・食育指導の推進 栄養教諭との連携	4	4
7　体力の向上	(12)継続的な体力つくりの実践	体力向上のための体育的活動・業間運動（マラソン・縄跳び）の実施 内外での遊びの奨励	4	4

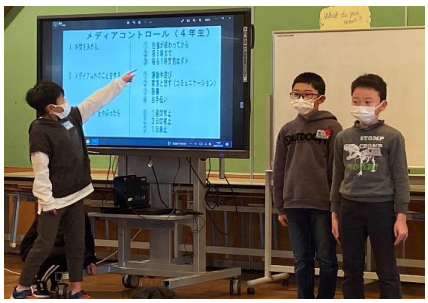






きちんと洗ったつもりでも…。

自分たちでメディアとの関わりを分析



おやつのタイミングも大切

なわとび、上手になったよ

Ⅳ　安全・安心

評価項目		自己評価A	学校関係者評価	学校関係者評価委員のコメント
児童の安全確保に取り組んでおり、諸問題への組織的対応が図られている。	前期	おおむね良好	良好	登下校時や緊急時の安全確保について、よく実施されている。交通安全については、日常的に見守り活動等よくやられている。自転車乗りのルールについて保護者に周知されており、子どもたちもルールを守ることができている。交通安全に関することや校内外の安全管理について、継続して取組を続けてほしい。
	年度	良好	良好	安全確保の事案に対する即時対応や体験活動を取り入れた避難訓練の取組がよい。子どもたち自身が安全を意識して生活できるためには、同じことを繰り返すことと新しいことを学ぶことはどちらも大切である。これからも、基本的なルールを確認したり、危険箇所について地域から情報を得るなどして、子どもたちの安全確保に努めてほしい。

自己評価の概要と学校の改善策

【前期（→年度）】

（13）歩行者として、また、自転車の運転者として、ルールやマナーを守っていると答えている児童が「よい」「だいたいよい」を合わせると9割を超え、交通安全に対する意識が高いといえる。4月に交通教室を実施し、1～3年生は歩行指導、4～6年生は、自転車の乗り方指導を行った。自転車の安全な乗り方については、交通教室の事前事後指導も含め、随時学級でも安全指導を行っている。登校指導、町内児童会などで児童の実態を見取り、継続指導していきたい。

（14）1学期に地震と不審者対応の避難訓練を行った。どちらの訓練も児童は真剣な態度で参加し、アンケート結果からも、児童の危機管理に対する意識の高さが分かる。不審者対応避難訓練では、防犯器具の研修（職員）や警察による防犯教室（児童）も行った。緊急連絡メールについては、今年度も保護者登録が100%となり、新型コロナウイルス感染防止、大雨等に関するメール配信を迅速に行うことができている。また、今年度は、地震の際の連絡網を見直した。今後も適宜見直しを図り、自然災害（地震、台風、暴風雪など）や新型コロナウイルス感染防止に対する対策など、より実際的な危機管理体制を構築したり、危機管理に対する職員・児童の意識を高めたりしていけるようにしたい。

（15）交通教室では、警察の方、上小子ども見守り隊、大館市交通指導隊、PTA生活指導部の方々と連携し、効果的に行うことができた。子ども見守り隊は、下校時の見守りも行っており、不審者に対する抑止力にもなっている。また、市スクールガードリーダーや池内駐在所巡査長にも朝の登校指導に協力していただき、児童の安全に対する意識を高めることができた。

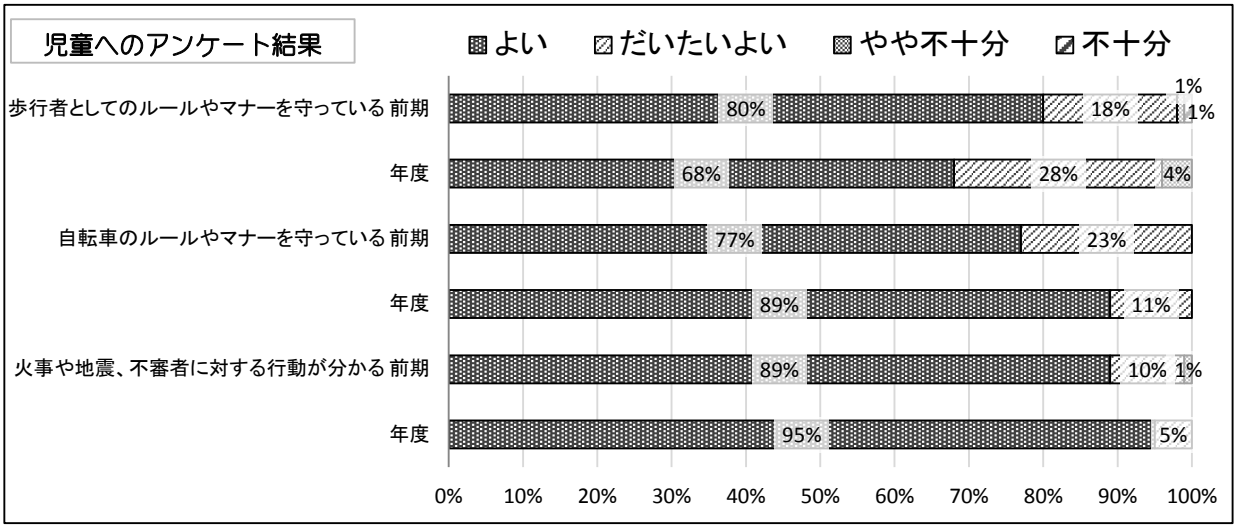
【年度（→次年度）】

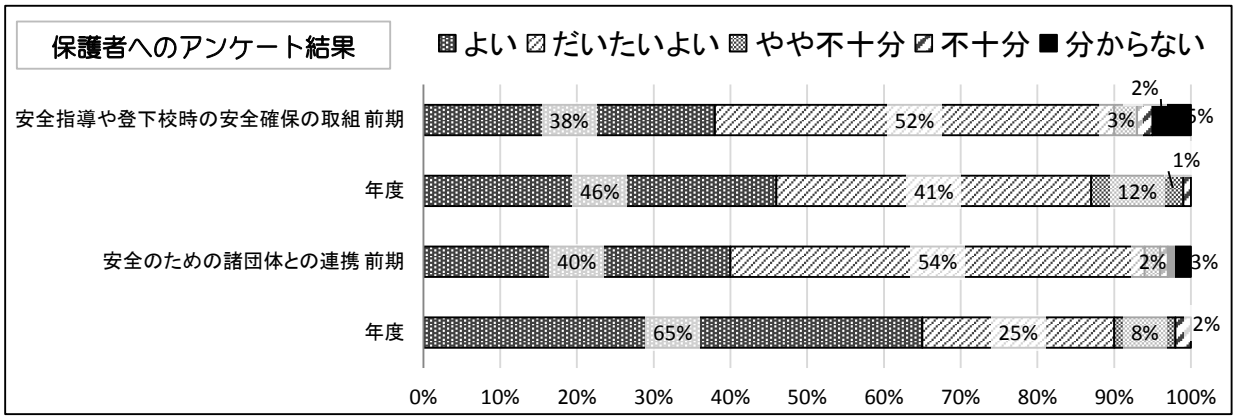
（13）歩行者・自転車の運転者としてのルールやマナーについては、9割の児童が「よい」「だいたいよい」と答えた。登下校時の歩行や自転車の乗り方については、必要に応じて全体指導や個別指導を行い、安全への意識を高めてきた。交通事故や大きな怪我のない生活ができているので、次年度も、引き続き指導を行っていきたい。

（14）11月に、管理棟2階の理科室から出火したという想定で、2時間目終了後の休み時間から3時間目に避難訓練を実施した。児童は、雨天のため、体育館への避難となったが、放送の聞き方や「あおかしも」の避難の仕方を守り安全に避難できた。全体会では煙から身を守るための防災学習を行った。実際に、煙が充満した教室の中を避難する煙体験を通して、煙の恐さや避難の仕方について学ぶことができた。また、避難訓練についての職員研修として、消火器と消火栓を用いた初期消火についての研修を行った。2月には、積雪時の火災を想定した避難訓練を行う。次年度も適切な避難判断・避難行動につながる訓練を行っていきたい。

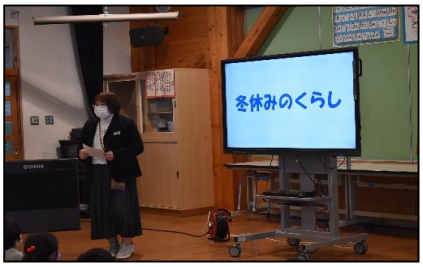
（15）前期に引き続き上小子ども見守り隊の方々が下校後の生活を見守ってくださり、不審な行動の抑止力となった。また、月初めにPTA生活指導部が校門前で、町内子ども会代表者が各町内で安全指導を行ってくださった。次年度も可能な形で関係機関との連携を図り、安全確保に努めていきたい。

評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B 前期	自己評価B 年度
8　安全教育と安全管理	（13）校内外における児童の安全確保	交通教室の実施や防犯意識の啓発 通学路点検　登下校指導 校舎内、校地内の安全点検	3	3
	（14）緊急時を想定した事前・発生時・事後の危機管理	緊急連絡体制の構築 災害別・季節別訓練の見直しと実施	4	4
	（15）各諸団体と連携した安全確保・安全指導	交通安全指導 登下校の見守り活動の実施	4	4





〈11月：火災避難訓練　防災学習（煙体験）〉
・休み時間の火災発生を想定。児童は放送の聞き方などの避難ルールを守り避難した。
・煙からの避難の仕方について説明を聞き、煙体験で具体的な避難の仕方を学習した。



〈2学期終業式後
生徒指導主事のお話〉
冬季の安全な生活について、写真や図を活用して指導を行った。

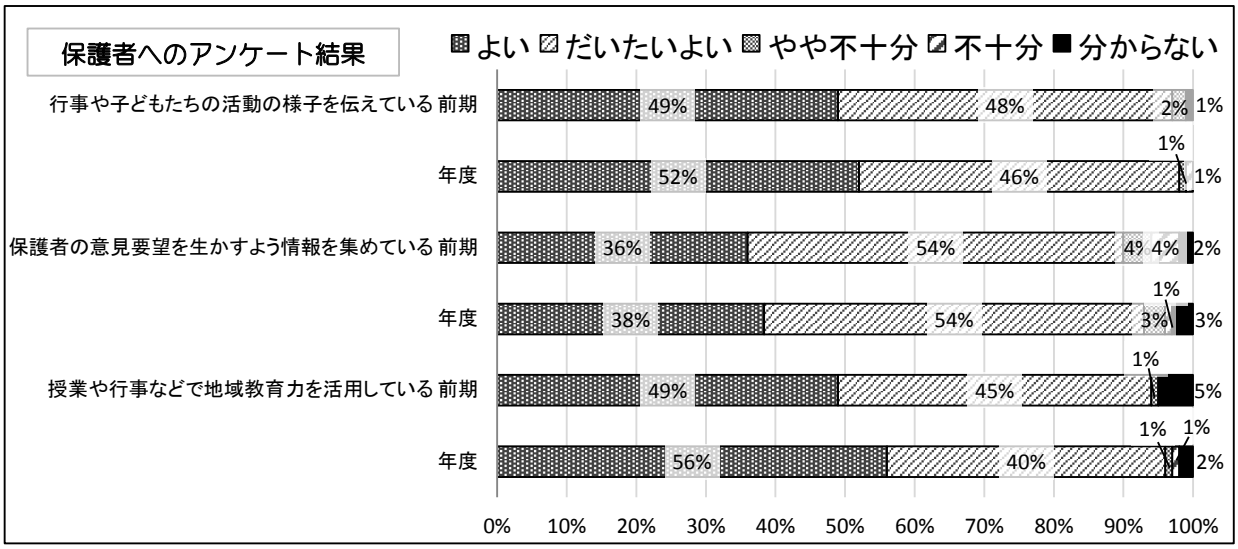
〈冬道の登校指導（3学期始業式）〉
積雪時の安全な登下校（歩き方）について、PTA・教職員で見守りや指導を行った。

Ⅴ　保護者・地域との連携

評価項目		自己評価A	学校関係者評価	学校関係者評価委員のコメント
保護者や地域に学校の様子が伝えられ、地域の教育力を有効に活用している。	前期	良好	良好	学校の情報発信について、保護者や地域の人が学校報、学年便り、ブログなどで、普段見ることができない学校の様子を知ることができてよい。地域人材や地域素材をよく活用できているが、体験するだけでなく、そこから地域の課題を見付け、自分たちでできることを考えるなどしながら、学習したことを発信し、ふるさとに対する思いを育てていけるように取り組ませてほしい。
	年度	良好	良好	「とびっきりの上川沿」について、テーマは同じでも新しいことにチャレンジしているのがよい。子どもたちも、学習や活動のねらいをしっかりとつかんで参加できている。保護者や地域の方々の協力体制もよい。これからも、子どもたちの心に残る行事や学習機会を増やしてほしい。上小の伝統である「地域とのつながり」という強みを生かし、さらに地域連携を図ってほしい。

自己評価の概要と学校の改善策	【前期（→年度）】 (16)(17)学校の情報発信や情報受信について、保護者の方からは、よい・だいたいよいを合わせると97%という高い評価を得ている。学校報や学年通信に加え、学校での児童の様子を毎日ブログで紹介している。特に、修学旅行でのリアルタイムで更新したブログは好評だった。また、行事や児童の安全面に関することなどを学校メールでこまめに連絡をしている。保護者や地域の方々からいただいたご意見や要望などには、ていねいに対応し、経営に生かしている。 (18)異校種との連携では、一中学区小中連携研究会(桂城小会場)、小中合同あいさつ運動、こども園の保育参観(教頭・1年担任)、特別支援学校との居住地交流を行った。また、一中生職場体験として本校に卒業生4名が来校し、全校児童と交流した。今後も中学校やこども園などとの交流や情報交換を通して、連携を密にしていきたい。 (19)今年度も様々な方々にご協力いただき、多様な学習や豊かな体験が行われている。総合的な学習の時間では、3年生の果樹体験、4年生の餌釣ファーム見学や5年生の田植え、保護者も参加した全校なし狩り遠足など、地域の方に協力いただきながら豊かなふるさとを体感することができている。
	【年度（→次年度）】 (16)(17)情報の受発信では、学校報やおたより・学校ブログで児童の様子がよく伝わるように、活動の写真や児童の作文などを数多く掲載することを継続したことで、高い評価につながったと考えられる。また、今年度の学習発表会では、保護者や地域の方の参観を自由にしたことで、たくさんの方々に児童の発表を見ていただいた。その他の行事もコロナ禍前に近い状態で開催したことで、学校の様子や児童の頑張りを伝えられたと思われる。保護者の意見や要望はよく検討し、今後も教育活動に生かしていきたい。 (18)異校種間の連携では、6年生が一中での体験入学を行い、中学校生活への見通しをもつことができた。また、今年度から南が丘こども園の園だよりが届けられ、現1年生も園の様子を知ることができ、幼少の連携に繋がっている。2月には、来年度入学する子どもたちの体験入学や中学校との情報交換会も計画されている。それぞれと連携を図り、4月からの新生活がスムーズに進められるよう努めていきたい。 (19)地域の方々の多大な協力をいただき、総合的な学習「とびっきりの上川沿」では、子どもたちが育てたりんごや米を保護者に販売したり、地域の特産品であるりんごとにんにくを使って焼肉のたれを作ったりした。6年生は、地域の企業を調べ、それぞれにキャッチコピーをつけたカレンダーを製作した。後日、各企業に送付する。1月下旬には、上川沿公民館に地域の方々を招待し、今年度の「とびっきりの上川沿」の活動をまとめた発表会を開催する予定である。地域の方々に喜んでいただけるように、各学年趣向をこらし準備を進めた。また、これまで使っていた上小キャラクターを5年生の図案をもとにリニューアルし、様々な場面で使用している。今後も地域の教育力を活用し、ふるさとを愛する子どもを育てていきたい。

評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B	
			前期	年度
9　情報の受発信と学校経営への反映	(16)保護者・地域への定期的な情報受発信	各種おたよりの発行やホームページの更新・改善による情報の発信 学校評価アンケート等での情報の受信	4	4
	(17)学校の使命と保護者・地域の声を生かした経営	学校評価・経営反省を生かした経営計画の修正と改善	4	4
10　幼保・小・中の連携	(18)異校種間の情報交換と多様な連携	授業参観等と交流行事の実施 一中学区小中連携研究会 幼小連携活動	3	3
11　豊かな体験活動	(19)地域の教育力の活用	とびっきりの上川沿・授業・行事での地域素材・人材の活用 「上小教育の日」の実施 PTA総務部と連携した出前授業の実施	4	4



「上小教育の日」３・５年生によるりんごと米の販売
今年は初めて広い体育館で両学年同時に開催した。5年生は田植えから稲刈りまで自分たちで育てた米、3年生は摘果・収穫作業をしたりんごにオリジナルのラベルを貼り、たくさんの方々に買っていただいた。

販売した3年生の「上小スペシャルりんご」と
5年生の「銀笑み」

「上小教育の日」授業参観
たくさんの保護者の方々に見守られ、緊張しつつも頑張って学習している姿を見ていただいた。お家の方から感想を話してもらう学年もあった。

「とびっきりの上川沿」４年生
～焼肉のたれ作り
上川沿地区のにんにくと中山地区のりんごを使い、JAあきた青年部の方々と一緒に作った。できたてのたれを焼肉にかけて試食し、大喜びだった。

「とびっきりの上川沿」６年生
プロフェッショナルカレンダー作り
上川沿地区の企業を調べ、カレンダーにまとめた。

「上小キャラクター」リニューアル
りんご・米販売の時にシールにしてプレゼントしたり、おたよりのカットに使ったりして活躍の幅を広げている。